

第2期工事の状況



右上が「寄宿舍棟」左上が「管理棟」左下が「特別教室棟」右下が「南教室棟」の木組みの状況です。

稲荷山養護学校改築工事を通じ

- 県民が誇れる長野県の財産（木造施設）を形成する
- カラマツ流通の実証モデルと位置づけ
- 確実な品質管理と流通システムを構築
- カラマツを無垢使用できる技術の確立
（カラマツ材の乾燥技術と接着重ね梁等）
- カラマツの強さ、美しさ、利用方法を全国に発信

森林整備の促進
木材産業の活性化

以上、稲荷山養護学校改築工事に伴う品質の確かな木材供給の取り組みについて、ご紹介させていただきましたが、この取り組みについては、単なる施設の工事を完成させるということではなく、上に掲げたとおりの5つの項目について、教育委員会、住宅部、林務部で協働し、県全体として取り組んでいるところです。これらの取り組みにより、最終的には、一般的にカラマツ間伐材が大量に使われるようになり、しいては、森林整備の促進、木材産業の活性化などにつなげていければと強く思っているところです。



以上ご紹介を終わりにいたしますが、稲荷山養護学校で学ぶ子ども達が、木の香あふれる学舎で情緒豊かに学べられるように、19年4月の開校に向けて、第3期工事につきましても安心安全な県産材を供給できるよう、更なる努力を重ねていきますので、皆様方におかれましても、更なるご支援をお願いいたしまして、ご紹介を終わりにいたします。